

本県の少年野球発祥の地「神岡町」。その一〇〇年の歴史が、町民の野球にかける深い愛情を育み、野球の町「神岡」として確立。町民の野球への情熱が、500歳野球大会を全国にも例のない一大イベントに成長させ、これが今年、四半世紀を迎えます。

町民の野球にかける想いが生んだ500歳野球（神岡町）

受け継がれて100年
野球にかける熱い想い

球選手を生み出し、町民の野球にかける熱い想いは連続と受け継がれてきたのです。

町民の野球への情熱が
500歳野球大会開催へ

本県の少年野球発祥の地として知られる神岡町。その野球のルーツは、明治35年、同町出身の富樫武治氏が、神宮寺尋常高等小学校に準訓導（代用教員）として赴任し、学校教育の一環として自身が東京で身に付けた野球を生徒に指導したことが始まりとされています。

500歳野球の始まりは、昭和53年、同町出身で当時県野球協会会長を務めていた、高橋政泰氏（故人）の提唱により、これまで実践に参加する機会が乏しく観戦だけに終わっていた、神岡町の旧・神宮寺地区の50歳以上のB達が行った紅白試合でありました。

そして、翌明治36年、同小学校の野球部の選手に守備位置の任命状を与えました。これが秋田県の少年野球の始まりとなったのです。

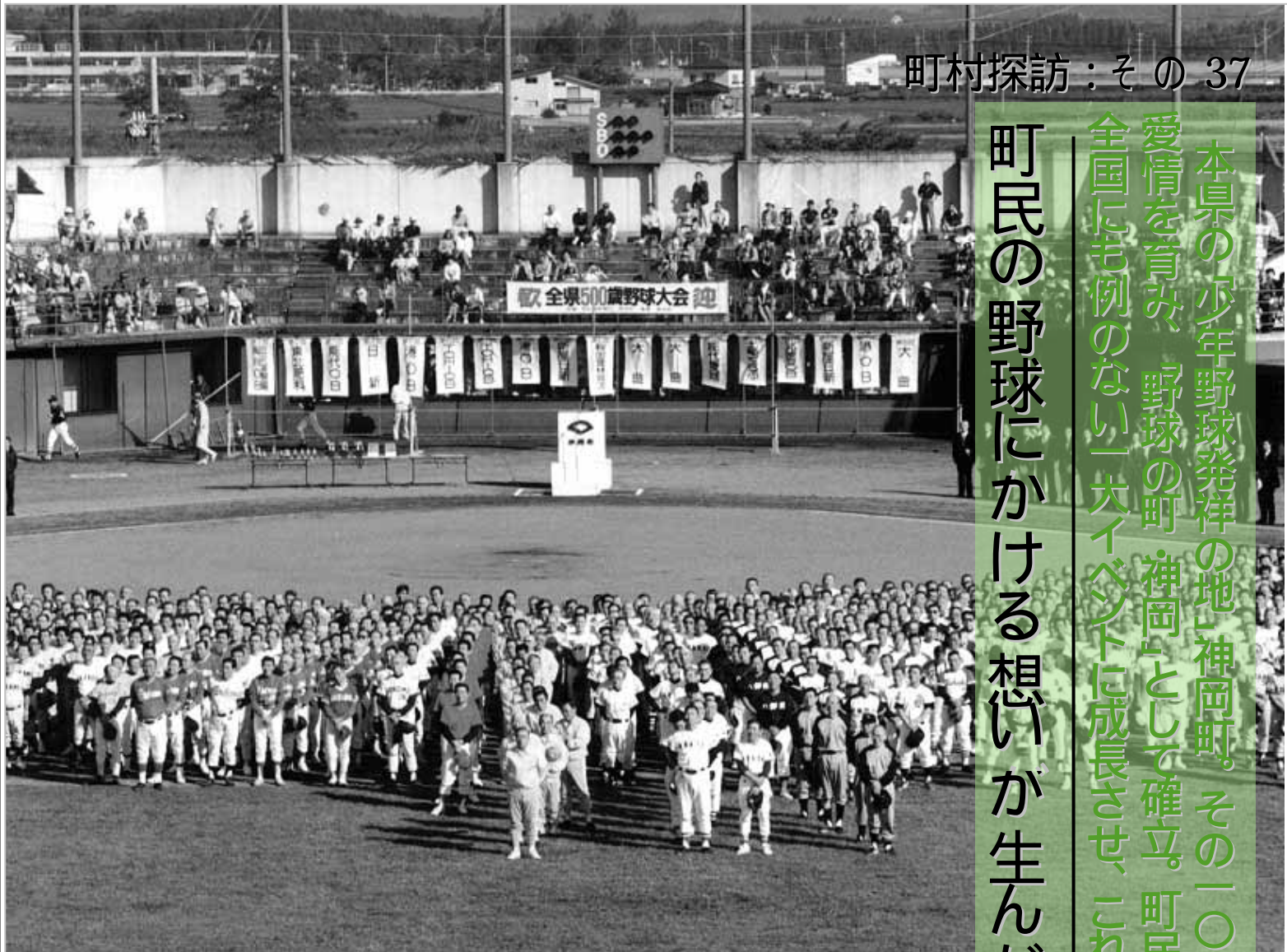
この任命状はまさに本県はもとより全国少年野球の宝物といえます。

これにより野球の町、神岡が生んだ往年の名選手達の走・攻守とも基本がしっかりとしたフレイに「野球は見るものではない、プレイしてこそ野球である」との想いを強めたのです。

以来100年を超える悠久の歳月に、野球にかける深い愛情を育てあげ、現在に至るまで幾多の栄光と幾人もの野

翌54年には町内外の反響の大きさも相まって第1回の

開会式には4000人を超える往年の名選手たちが、500歳野球の甲子園「神岡野球場」にやってきます。



大曲仙北500歳野球大会
(郡市大会)が開催され、こ
の成功が同年秋季の全県大会開
催へとつながり、同町の野球
に対する情熱が500歳野球
へと受け継がれ、記念すべき
「第1回全県500歳野球大
会」が行われたのです。

全国にも例を見ない

町自慢の一大イベント

全県500歳野球大会の一
番の特徴は地区予選大会を行
わず、県のようなチームでも参
加できるところにあり、全県
規模の活躍の場が出来たこと
で、県下の熟年チームの結成



出場全チームによる入場行進は、見る人に感動を与えます。

にも拍車がかかりました。

7回大会の昭和60年に30
チームを超え、12回大会の平
成2年に51、さらに18回大
会の平成8年には100の大
台を突破して104チームに
なりました。その後も出場チ
ームは増加の一途をたどり、
昨年の24回大会には、145
チームにまでになり、そして
25回の四半世紀を迎える今
年は(9月20日～5日間)1
50を超える勢いであります。
開会式には、4000人を
超える全県下の往年の名選手
が、主会場である神岡野球場
に集い、出場全チームが入場
行進を行う様子は圧巻でありま
す。まさしく全国にも例を見
ないマンモス大会であり、町
自慢の一大イベントに成長し
てきたのです。

大会特別ルールは

幅広い年代出場に配慮

この大会はいくつかの特別
ルールが適用されており、ま
ず、「出場選手は50歳以上」
(前記の同期で49歳も出場
可)で、特に「出場9選手の
合計年齢が常に500歳以上
になること」のルールでは、

過去に計算ミスから没収試合
になるケースもありました。
そのため選手交代の際には電
卓を片手に採配する場面も珍
しくありませんでした。

また、「55歳以下の投手は
9アウトをとるまでしか投球
できない」、「試合は5イン
グ」、それから「選手は交替し
ても再出場可能」、「投手
本塁間は16m、塁間23m」(学
童野球と同じ)など、幅広い
年代の選手が出場できるよう
配慮されています。

町民と町が一体となって

大会運営にあたる

大会期間5日間で、140
〜150試合を消化するとな
ると大会本部にとっても、選
手にとってもハードスケジュール
。執戦を繰り返す試合
会場は、神岡野球場を主会場
に11の会場で行われ、町内の
球場ではまかない切れず、町
と隣接するこれまた野球と縁
の深い土地柄の南外村に4会
場の応援をお願いしています。
土、日の試合数の多い1・
2回戦では、町民のボランテ
ィアを募り、町職員を総動員
して試合進行、駐車場等会場
整理、記録整理などに当り

ます。町の野球連盟では、大
会前日に神岡球場に泊り込み
で対応に備えています。

また、審判の派遣について
も桁外れで、県野球協会審判
部の協力を仰ぎ、県南の各支
部を中心に秋田、南秋田、本
荘の10支部から200人の
審判が動員されます。

町では参加選手への激励と
歓迎の意をこめて例年、町の
特産であるいものこ汁を「道
の駅かみおか」において無料
で振舞っています。選手たち
にも大好評で、今年も大会初
日には、町給食センター職員
などによって3000食が用意
される予定であります。

他に、町の商工会や女性グ
ーループ、JAなどによる特
産品等の直売コーナーが設け
られ、大会を盛り上げていま
す。まさに町民と主催する町
とが一体となって大会運営に
あたっているのです。

100周年の節目の年

四半世紀大会に期待

近年、大会規模が大きくな
るにつれ大会運営が厳しくな
り、町では予選大会を実施す
ることを検討しては見ました
が、出場選手たちの「我々の

甲子園は500歳野球の神岡
球場だ」という熱い想いと、
町民の「野球の町」としての
誇りを思うと、予選大会は出
来ない。今後もこれまでどお
り全国でも例のないこの大会
を出来る限り運営して行こう
と取組んでいるところです。

今年が少年野球発祥から丁
度100周年にあたります。
この8月14日には記念祝賀
会を開催し、少年野球の一層
の発展を誓い合ったところで
す。この節目の年に500歳
野球大会が四半世紀を迎える
のも何かの縁であり、今年も
野球を愛してやまない熟年プ
レーヤー達の熱戦が繰り返され
られることでしょう。



選手たちに無料で振舞われるいものこ汁、今年は3000食を用意して歓迎します。